

熊本地震サポート隊11月派遣

益城町の
仮設団地

11日～13日 たこ焼きパーティーや演芸披露

グループわ は熊本地震サポート隊を11月11日（金）から13日（日）まで熊本県益城町の仮設住宅団地に派遣することを決め9月27日の運営委員会、10月4日の理事会で了承されました。訪問する仮設団地は、①小池島田95戸②安永70戸③飯野小48戸④赤井35戸の4か所。11日は訪問準備、12日、13日は午前と午後に分けて、各団地を1か所づつ回ります。各仮設団地は戸数が少ないので、集会所（写真下）は狭く、長机もパイプ椅子も少ししかありません。流しはありますが、調理器具はゼロ。すぐに調理できる状態にした食材と道具を持ち込む必要があります。住民は、平日は田畑や仕事に出ており、イベントは土曜日、日曜日しか開けません。

そこで、〈わ〉は狭いスペースでも手軽にできるたこ焼きパーティーを催すことにし、その前後に演芸のパフォーマンスを演じます。サポート隊は計10人で団長は小畑浩昭理事長。たこ焼きチームは食文20期の有志4人（根角光宣、井上久美子、蔵本公子、夏木久子）、演芸チームは民謡・三味線の波多野武郎（食16）、マジック・子ども遊びの古後健一（福18）、腹話術・人形劇の田山映二（福22、現役学生）、手話ソング・体操の橋本敏代さん（福19）の4人と事務局として大槻隆文理事。神戸市社会福祉協議会の活動の1つとして行きます。

益城町は熊本市の東部に隣接する人口約33,000人、

13,000世帯の町。2016年4月14日、16日に震度7の激しい地震に連続で襲われ、甚大な被害が出ました。広報ましき10月号によると死者23人、負傷者128人、全壊2714戸、半壊2909戸。避難所で約200人、仮設団地17か所で1400人が暮らしています。町では建物の解体作業と仮設住宅の建設が同時並行で進んでいます。仮設住宅の入居期限は2年。全壊、大規模半壊、高齢者の世帯が入居しています。

9月8日、9日に事前現地調査

グループわ の小畑理事長、市原理事、大槻理事は9月8日、9日に訪問予定の小池島田、赤井、飯野小、安



永仮設団地を訪れ、各自治会長らと懇談、事前調査をしました。小池島田団地の増田自治会長は「田は地割れで稲を植えられなかった。復旧には2年かかる。今、ボランティアに来られても体制ができていないが、10月初めには受け入れ可能になる」、赤井団地の笠井自治会長は「顔見知りや老人が多い」、飯野小団地の草野自治会長は「イベントは原則小学校の子供たちとすることになっている。お年寄りが喜ぶことをしてほしい。イベントに慣れていない」、安永団地の橋本自治会長は「住民の66%は同じ地区から入居。地震直後は町の駐車場に避難していた」などと話してくれました。（写真 小畑理事長、文 広報 永野知己）

悠々、創エネ神戸」と本部からスタッフ98人が出て子供たちにアドバイスしたり、手伝って、大忙しの日でした。

夏休みの宿題 できたゾ!

工作塾へ子どもら300人

8月21日にしあわせの村研修館で開かれた「夏休み工作塾」では、ソーラーカー教室（1面に掲載）のほか、木工工作、和紙の折り染など3つのブースが設けられ、300人を超す親子連れで大賑わい。子どもたちは苦労して作った作品を手に、「宿題が出来た!」とニコリ。



グループわ は8グループ（木工グループ、ケナフの会、むかしあそび研究会、里山和楽会、花実の森PJ、里山グループ、折り紙グループ

悠々、創エネ神戸」と本部からスタッフ98人が出て子供たちにアドバイスしたり、手伝って、大忙しの日でした。Aブースは木工。モビール、トラ、車などに挑戦。Bブースはむかしあそびの和紙の折り染。ケナフの会は押し花絵葉書、葉。里山和楽会はネイチャークラフト。Cブースは里山グループと花山梅林会の竹細工とつる細工。花実の森PJはバーニングアート。折り紙グループ悠悠は複雑な折り方を根気よく子供たちに教えました。

（文と写真 永野知己）